

## 未来のために

### 小 四

わたしは、手話を習っています。ここでは、読み取りや、手話を使ったゲームなどをしていきます。手話には、特ちょうが三つあります。一つ目は、にている手話があるので、顔でも表げんをすることです。二つ目は、場所によつて手話がちがうことです。三つ目は、言葉と言葉で文を作ることです。わたしが手話を始めたのは、ほ育園に通っていたころです。新がたコロナウイルスのえいきょうで、友達と気軽に話すことができなくて、とてもこまっていた。そんなとき、手話に

出会いました。ほ育園のみんなで、いろいろな手話を覚えました。ほ育園のみんなと手話で話せるようになってきたことで、笑顔が生まれ、とても楽しくなりました。そのときの楽しさを、今でも覚えています。その楽しさを続けるために、手話を習っています。

手話を習っているところには、ろう者の方がいます。そのろう者の方は、こんなことを教えてくれました。それは、「耳が聞こえない、話せないことで大変なことがある。」ということなんです。例えば、お店で注文するときや放送があつたとき、声をかけられたときなどです。わたしは、こまっているろう者の方を見たり、話を聞いたりして、本当に大変だと思いました。

わたしには、そのこまっっているろう者の方のために、かなえたいゆめがあります。それは、手話でお話をして友達を作るカフェを開くことです。みんなで手話をして、友達になれたら、すごく楽しいし、うれしいです。そのゆめをかなえるために、今わたしは、手話を覚えることをがんばっています。わたしは、ろう者の方もみんなと同じように、お店に行って、楽しく買い物をしたり、友達を作って遊んだりできるように、このゆめを大切にしています。うと思っっています。ろう者の方も、みんなと同じようにすごせますように。